

検討事項に対する意見集約票のまとめについて

第 2 回までの検討委員会及び説明会等の開催を踏まえて、委員の皆様には各地区のご意見を集約していただきました。その主な内容（要旨抜粋）については下記のとおりです。

※適正規模を基本とする考え 荒川沖寺子線を基本とする考え

※赤字は検討委員会当日の議論内容及び、提出が間に合わなかった地区の意見集約票を反映して添削したもの

	主な意見	具体案
二区南	- 関係者の皆さんの共通点を最大限に取り入れて実現する。(最大公約数) - 署名による要望や特例の提案がされていることも含めて、子供にとってのベスト（またはセカンドベスト）を検討する必要がある。	
一区	- 案⑤、⑥は通学距離の面で適正とは言えない。 - 案④でも、本郷小学校周辺の住宅地開発により適正規模になる可能性が高い。	案④
上本郷	- 本郷三丁目には申し訳ないが案①を支持。妥協案で案④。 - クラス替えは必要なので、最低 2 学級は確保してもらいたい。 - 本郷小は、実穀小との統合と近隣の開発で 2 学級を確保。 - 新小学校は、本郷区だけでなく開発の余地が残っているので、教室の不足が生じられると思われるが、現在の本郷小と同じように仮設のプレハブで対応すれば良い。 - 心のケアは最初の数週間の見守りが大切。 - 地域コミュニティ、行政区の再編も検討の必要がある。	案① + 実穀小 妥協案で 案④
本郷	現時点では集約困難。	
住吉 育成会	(前回の委員会で、住吉からスクールバスで通学すれば良いという発言に対して) - 住吉から本郷小学校へバスで通学することは考えられない。 - 新小学校に入れないのはあり得ない。	案①-2 + 実穀小
二区北 育成会	- 最重要事項は『適切な通学路(距離・環境)』。荒川・沖寺子線でわけるという案が通学路をみてもバランスがとれていて妥当性があると思う。 - 適正規模の確保も子ども達にとって重要課題である。しかしこれは住民レベルで話し合って決めるのではなく、行政が主体となって問題解決をすべき。(実穀小との統合・局地的に集中している本郷地区の児童は選択制にする等)	案①、② + 実穀小
二区南 育成会	- 本郷区の意見、気持ちは理解できる。 - 住吉、二区北、二区南は遠いので新小学校に行ければ助かる。 - ただし、遠くても友達がいれば楽しく通える。(今の本郷小学校のように)校庭が使えないくらいの学校に通うのはかわいそう。早く解決してのびのびと遊べるようにしてもらいたい。 - 親も子供もぎくしゃくするような案では、子供が一番振り回されてしまう。	大規模校は避ける 案①、② + 実穀小
一区 育成会	- 最優先に考えるのは両校とも適正規模にすること。また、中学校で一緒になることを考えるとあまりにも不自然な分け方は良くない。 - 本郷区に出来る学校だから本郷区の人が通うのは当然だ、住吉の人はスクールバスで本郷小へ通えばいいといった意見には同感しかねます。 - 本郷小には行きませんといった意見があることに、とても悲しい気持ちになりました。将来のことも考えて冷静に議論されることを願います。	案④

上本郷 育成会	・新小学校は本郷区のための学校ではないと思う。何が優先なのか、妥当なのか、未来を担う全ての子供のために良い学区編成、教育環境を与えてほしいです。両校が望ましい規模になるよう分離することが優先と思います。 ・極端に大規模校と小規模校になってしまうことが可決されれば、この再編は全く意味のないものとなってしまいます。 ・両学校が、学級、学年、全体の各々で有意義な活動(行事)が出来ること。 ・子供が集団の中で切磋琢磨し、一人一人の資質や能力を伸ばしやすくすること。 ・通学の安全・距離を考慮すること。 ・以上のことから案⑤または案④が望ましい。	適正規模 案⑤ または 案④
下本郷 育成会	・全学年 2 クラスあることが望ましい。1 クラスしかない小学校の運営は本当に大変だと思います。 ・一方で、大人が納得しないと前に進まないとも思います。その場合は、最初の案①であれば皆さん納得するのではないかと。 ・新小学校に教室が足りないならプレハブ校舎を利用してはどうか。 ・トイレ改修などのおかげで、子供たちの本郷小の印象は良くなっている。希望者は本郷小への通学を認めてはどうか。	適正規模 もしくは 案① + 学校選択 制度
本郷 育成会 (一丁目)	・最も近隣の住民が新小学校に通うことは、安全を考慮しても自然の流れである。 ・本郷小学校区全体のことを考えれば、本郷区が分離することも致し方ない。 ・少数ではあるが、全体を考えればどちらの学校でも良いという意見もある。 ・全体の意見をまとめるには、学校選択制度など柔軟な対応が必要。	案①-2 + 実穀小 + 学校選択 制度等
本郷 育成会 (二丁目)	・本郷二丁目は新小学校に通学させて頂きたい。 ・これまでも長距離通学で大変な思いをされてきた住吉、二区北、二区南、一区の一部については配慮が必要。 ・実穀小と統合して両校に適正規模を確保できるような案を考えたい。 ・荒寺線の分割案は、一時は各方面で納得が得られていた案であるため、当初の案に戻ることが皆さんの理解が得やすいと思われます。	案① + 実穀小
本郷 育成会 (三丁目)	・いずれの案も本郷二丁目、三丁目の総意を汲んでいないが、適正規模の確保のために案⑤をベースに検討を行うことは現実的である。 ・本郷区住民の合意のため、町の保留地購入者に対する配慮(暫定措置)が必要。計画の変更により教育委員会の責任が無くなるわけではありません。購入者への配慮を行わない場合、教育委員会による意図的な不正の疑いが生じます。 ・新小学校となる通学区域から、本郷小学校を希望する住民に対する配慮。新小学校立ち上げ時の負担やトラブルを避けたい、そういった労力を割きたくないという意見が実際にある。 ・本郷三丁目は、本郷小だけで 2 学級確保する分離を希望している訳ではない。あくまでも適正規模が確保できれば良いので、実穀小と統合して 2 学級となるのであればそれで良い。	案⑤ + 学校選択 制度等 案①、② + 実穀小 + 学校選択 制度等
シンワ 育成会	・開校年度から両校に望ましい学校規模を確保してほしい。少なくとも 1 学年 2 学級以上となる人数配分をしてほしい。40 案の中では案⑤、⑥、⑨、⑩。 ・通学路の安全確保にも配慮が必要。 ・児童の心のケアとして、分離後しばらくは両校共同のイベントを開くなど具体的なプランを示すようにしてほしい(例：卒業式の合同イベント等)	適正規模 案⑤、⑥、 ⑨、⑩ 案①-2 + 実穀小
中根 育成会	・両校に適正規模を確保した分離を希望します。 ・子供たちにとって、どちらも誇れるような母校となりますように、冷静で公平な結論が導かれることを期待します。	適正規模

通学区域の具体案に係るメリット・デメリットについて

	適正規模を基本とする案	荒川沖寺子線を基本とする案
メリット	・本郷小の分離だけで、概ね 2 学級以上 4 学級以下の学校規模が確保できる。 ・市街化区域の一部を本郷小とすることで、本郷小の将来児童数を確保するとともに、新小学校の教室不足の危険性を下げることができる。	・大きな道路を基本とした明確で分かりやすい通学区域となる。 ・平成 26 年から案として提示されていたものであり、地域住民の理解が得やすい。 ・通学路の安全を確保しやすい。
デメリット	・本郷小へ長距離通学している地区や、新小学校まで至近の地区があり、通学距離や安全面の配慮が不十分である。 ・区画整理地内(本郷二, 三丁目)に住宅を購入した世帯への配慮が不十分である。	・本郷小は、実穀小と統合しなければ 2 学級以上の学校規模を確保できない。 ・新小学校は、開校時点から適正規模を上回るため、教室(多目的室等)の転用が必要。 ・多くの市街化区域を含んでおり、新小学校効果や集合住宅の建築を考慮すると、開校後数年で教室不足が発生する恐れがある。(再度通学区域を見直すか、運動場に仮設校舎を設置するなどの対応が必要) ・区画整理地内(本郷三丁目)に住宅を購入した世帯への配慮が不十分である。